

## 前略、市史編さん室より

## 市史編さんの調査がスタート！

今回は古代部会を紹介します。古代部会では新たな指宿市史に反映させたい大きな検討テーマがあります。それは、『紫コラは、本当に貞観16年(874年)の開間岳の噴火の堆積物なのか?』というテーマです。

紫コラは、貞観16年3月4日の開間岳の噴火による火山噴出物と考えられていますが、本当にそうであるのか、古代部会では活発に議論が行われています。



紫コラ

## コラって何？

コラは、亀の甲羅のように硬いことから、「甲羅…こうら…コオラ…コラ」と呼ばれるようになったといわれる開間岳の噴火によってできた地層です。コラはとても固く、長らく農業の障害になってきました。

## 【解説1】

## なぜ、研究者たちは紫コラの年代にこだわるのか？

7世紀後半から9世紀前半(奈良時代から平安時代)の時期は、日本の歴史記録に隼人と呼ばれる人々が登場する時期です。9世紀後半の開間岳噴出物とされる紫コラの直下には、隼人と呼ばれる人々の生活の様子を知る手掛かりが残されています。そのため、紫コラの噴火年代は、日本という国が形づくられていき、南九州の歴史的展開を考えるうえで重要な意義を持つ研究テーマとなるのです。

もし、開間岳の噴火が貞観16年ではなかったとしたら、平安時代の南九州の歴史の見方に影響がでてきてしまいます。

## 【解説2】

## なぜ、これまで紫コラは貞観16年の開間岳の噴火によりできたとされてきたか。

- ①平安時代に編さんされた歴史書『日本三代実録』<sup>にほんさんだいじつろく</sup>に開間岳の噴火記事が記されていること(文献資料)
- ②文献に記された火山災害の様子と発掘調査で確認された内容が類似していたこと(考古資料)

## 【解説3】

## なぜ、貞観16年とされた開間岳の噴火の年代について疑問点が出てきたのか。

開間岳の噴火が貞観16年であれば、この紫コラの直下には貞観16年頃の遺物が埋もれているはずですが、橋牟礼川遺跡の紫コラ直下から発見された出土遺物は、貞観16年から100年くらい前の物ばかりで貞観16年頃の遺物は発見されていません。

この文献資料の『日本三代実録』と考古資料の橋牟礼川遺跡の出土遺物の年代の矛盾について、当時、橋牟礼川遺跡の発掘調査に携わった市学芸員は「将来、紫コラによって直接埋没した遺構群が発見されれば、より高い精度で年代が割り出せる」と考えていました。しかし、近年の発掘調査で、紫コラによって直接埋没した建物などが発見されましたが、貞観16年頃の遺物は1点も発見されていません。このような背景から、紫コラと開間岳の貞観16年の噴火について再検証する必要があります。この検討テーマが生まれたのです。

古代部会ではこの検討テーマを整理するため、議論を重ね、結果を新たな市史に反映できるよう取り組んでいます。市のシンボルでもある開間岳を巡る歴史の謎がどのような終着を迎えるのか、令和10年度の市史の完成を楽しみにお待ちしております。



(開間仙田)

開間岳の麓で地層を熱心に観察する古代部会のメンバー

## 指宿市の古い資料や写真などの情報を集めています

ご自宅にある古いものが大切な資料かもしれません。次の情報などがありましたら、ご一報ください。

- 古い文書・絵・地図・日記・手紙など
- 明治から昭和の風景や行事などの写真・映像
- 市内の団体などが刊行した記念誌など

2次元コードからも連絡できます



閩市史編さん室市史編さん係 ☎080-8210-1656